

令和元年度

第29回加古川市中学生海外派遣団 報告書



公益財団法人 加古川市国際交流協会
Kakogawa International Association

目 次

世界との架け橋を担う人材となることを期待して

公益財団法人 加古川市国際交流協会

理事長 岡田 康裕 ————— 1

中学生海外派遣

オークランド市の紹介 ————— 2

団員プロフィール ————— 3

派遣団日程表 ————— 4

事前研修・結団式 ————— 5

派遣団員による10日間の記録 ————— 6

事後研修・帰国報告会 ————— 15

団員レポート ————— 16

思い出のページ ————— 38

世界との架け橋を担う人材となることを期待して

2019年4月、いわゆる改正出入国管理法が施行され「特定技能」という新たな在留資格が新設され、外国人労働者数は今後さらに増加すると見込まれています。

加古川市も例外ではなく、在住外国人は5年前から10%以上増加しており、現在2,900人を超えています。在住外国人の中には、言葉や文化、生活習慣の違いから、日本での生活に困惑し、助けを必要とされている方も増加しています。このような状況において、当協会では、「地域に根ざした国際交流」を推進するため、外国人からの相談に対応するとともに、日本語ボランティア養成講座などボランティアの育成を図り、外国人に対する日本語講座やプライベートレッスンなどの様々な事業を実施しています。

加古川市は、昭和48年（1973年）にブラジル・マリンガ市と姉妹都市提携を締結し、また、平成4年（1992年）には、財団法人加古川市国際交流協会を設立するとともに、ニュージーランド・ワイタケレ市と姉妹都市提携を締結し、地域の国際交流進展のため様々な取り組みを展開してまいりました。なかでも、国際交流に貢献できる人材の育成を目指し、中学生海外派遣事業、障がい者海外派遣事業、青年海外派遣事業を行っています。

中学生海外派遣事業は、29回目となる今回もニュージーランド・オークランド市に10名の中学生を派遣し、友好親善を深めてまいりました。今回の派遣により、派遣生が国際理解を深め、草の根的な国際交流の中心的役割を担う人材になっていくことを確信しています。

結びになりますが、この中学生海外派遣にあたってご理解、ご協力を賜りました保護者の皆さまをはじめ、関係機関の皆様に厚くお礼申し上げます。

令和元年12月

公益財団法人 加古川市国際交流協会

理事長 岡 田 康 裕

オークランド市の紹介

オークランド市は北島の北部に位置し、一大ビジネス地区を有するニュージーランド最大の都市です。民族はマオリ族をはじめ多岐にわたり、多様性に富んだ文化が育まれています。マヌカウ湾とワイテマタ湾の間に位置するオークランド市では、点在する島々、海岸、森林保護地など自然が豊かに息づいており、誰もが気軽にレジャーを楽しむことのできる環境が整っています。また、気候は穏やかで、生活の質、水準ともに世界最高レベルを誇っています。

加古川市は、1992年にワイタケレ市と姉妹都市提携しました。その後、ワイタケレ市は2010年にオークランド市をはじめとする周辺の市町と合併し、現在のオークランド市となりました。これにより、加古川市とワイタケレ市の姉妹都市交流は、オークランド市との交流に引き継がれることとなりました。

オークランド市と加古川市 ～交流のあゆみ～

1991年（平成3年）	8月	第1回加古川市中学生海外派遣団がワイタケレ市を訪問
1992年（平成4年）	3月27日	財団法人加古川市国際交流協会（現・公益財団法人）設立
	5月	第1回ワイタケレ市学生海外派遣団が加古川市を訪問
	5月4日	加古川市・ワイタケレ市の姉妹都市提携に調印
1996年（平成8年）	6月	姉妹都市提携5周年記念として、ワイタケレ市からトーテムポールの寄贈を受ける
1998年（平成10年）	2月	ワイタケレ市に日本庭園を寄贈
2000年（平成12年）	6月	ワイタケレ市親善訪問団が市制50周年記念式典出席のため加古川市を訪問
	6月11日	加古川市国際交流センター開館
2001年（平成13年）	8月	ワイタケレ市に救急車を寄贈
2009年（平成21年）	11月	ワイタケレ市制20周年記念として、ワイタケレ市に「平和の鐘」を寄贈
2010年（平成22年）	6月	加古川市制60周年記念式典出席のためワイタケレ市訪問団が加古川市を訪問
	11月1日	ワイタケレ市が近隣市町と合併し、オークランド市となる
2012年（平成24年）	5月14日	加古川市・オークランド市の姉妹都市提携に調印
2019年（令和元年）	8月	第29回加古川市中学生海外派遣団一行12名がオークランド市を訪問



加古川市が寄贈した「平和の鐘」

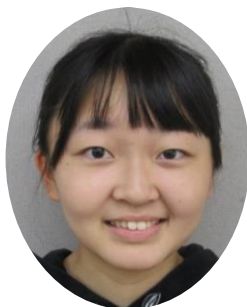


オークランド市との姉妹都市提携の調印式

団員プロフィール（５０音順）



荒川 茜理
志方中学校３年
ARAKAWA AKARI



谷 星那
浜の宮中学校３年
TANI SEINA



富田 桜子
陵南中学校３年
TOMITA SAKURAKO



原 泰也
白陵中学校３年
HARA TAIYA



福原 こと美
中部中学校２年
FUKUHARA KOTOMI



松田 彩花
賢明女子学院中学校２年
MATSUDA AYAKA



松本 志穂
加古川中学校３年
MATSUMOTO SHIHO



三谷 透生
別府中学校３年
MITANI TOI



宮平 和穂
別府中学校３年
MIYAHIRA KAHO



吉岡 歩乃果
白陵中学校３年
YOSHIOKA HONOKA

引率

大橋 愛香
氷丘中学校教諭
OHASHI AIKA

福本 絵里
（公財）加古川市国際交流協会事務局次長
FUKUMOTO ERI

派遣団日程表

月日	場所	交通機関	行 程	宿泊先
8月12日 (月)	加古川発 伊丹空港 羽田空港 成田空港	市バス 日本航空 リムジンバス ニュージーランド航空	加古川市国際交流センター出発 羽田空港へ向け出発 成田空港へ向け出発 オークランド国際空港へ向け出発	機中泊
8月13日 (火)	オークランド	専用車	オークランド国際空港到着 オークランド市内見学 ホストファミリーと対面、ホームステイ先へ	オークランド市で ホームステイ
8月14日 (水)	オークランド		ワイタケレ日本庭園訪問 オークランド博物館訪問 オークランド市役所表敬訪問	オークランド市で ホームステイ
8月15日 (木)	オークランド		ラザフォード・カレッジ訪問 授業体験	オークランド市で ホームステイ
8月16日 (金)	オークランド		ラザフォード・カレッジ訪問 授業体験	オークランド市で ホームステイ
8月17日 (土)	オークランド		ホストデー 終日ホストファミリーと行動	オークランド市で ホームステイ
8月18日 (日)	オークランド		ホストデー 終日ホストファミリーと行動	オークランド市で ホームステイ
8月19日 (月)	オークランド ハミルトン		ワイカト博物館見学 ハミルトンガーデン散策	ホテル
8月20日 (火)	ハミルトン オークランド	↓	ホビット村ツアー オークランドへ向け出発	ホテル
8月21日 (水)	オークランド 成田空港 羽田空港 神戸空港 加古川着	ニュージーランド航空 リムジンバス 全日空 市バス	成田国際空港へ向け出発 羽田空港へ向け出発 神戸空港へ向け出発 神戸空港到着 加古川市国際交流センター到着	

事前研修

選考会で選ばれた10名の派遣生は、加古川市の代表としてオークランド市を訪問することの認識を深めるために5回の事前研修に臨みました。事前研修では、加古川市における国際交流の現状や当協会が実施している事業、ニュージーランドの歴史や文化、自然など基礎的な知識を学びました。

また、派遣生はポスターブック（オリジナルの自己紹介冊子）を作成し、ホームステイ先で自分や家族、日本や加古川市のことを英語で紹介する準備をしました。

英語研修では、ニュージーランド出身のポール・コーンウォールさんによる、実践的な英会話を学びました。さらに、昨年度の派遣生を招いての座談会では、ホームステイや学校訪問など実際の体験談やアドバイスを聞くことができ、より一層海外派遣への期待が高まりました。

その他、オークランド市役所表敬訪問や学校訪問で披露する歌の練習を派遣生が協力して行うことで、派遣生同士の仲は深まり、派遣団の結束はゆるぎないものとなりました。



ポール・コーンウォールさんによる英語研修

事前研修日程

第1回	6月30日	オリエンテーション、自己紹介
第2回	7月6日	ニュージーランドについて
第3回	7月21日	英語研修、昨年度派遣生との座談会
第4回	7月30日	英語研修、現地で披露する歌の練習
第5回	8月9日	日本文化紹介、滞在上の注意

結団式

8月3日（土）に国際交流センターにて、結団式を実施しました。加古川市長や加古川市議会議長から激励のお言葉をいただき、加古川市を代表して派遣されることへの責任を改めて感じました。また、国際ソロプチミスト加古川から現地で使用するリュックをいただきました。そしてリーダーの松本さんが派遣にかかる意気込みを力強く宣誓しました。



リーダーの松本さんによる宣誓



結団式後に記念撮影

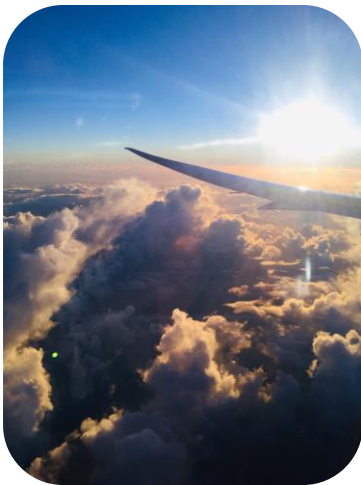
派遣団員による 10 日間の記録

8月12日（月）・13日（火）

荒川 茜理

いよいよ出発の日、私は出発式で決意表明をしました。家族や学校の先生、今までにお世話になった方々の前で、10日間楽しんで過ごし、成長した姿で帰って来ることを誓いました。バスの中では、みんなの学校の話で盛り上がりドキドキしていた気持ちも、楽しさに変わっていきました。

成田空港で自由時間があったので、派遣生数名と空港の中にあるコーヒESHOPを探しました。思っていた以上に時間がなく、しかも集合場所の真反対の場所にあったので大急ぎで向かいました。そんな出来事もあり、団員のメンバーとさらに心の距離を縮め、仲良くなることができました。



飛行機から見た朝日

11時間のフライトは、私が想像していたよりも快適でした。機内食や、飲み物を注文する時は、当たり前ですが英語です。簡単なやり取りですが、もう自分が日本を出発したことを

実感し、少し緊張しました。

ニュージーランドに着いて、周りの人が話す流暢な英語に圧倒されながらも、これから始まる10日間に胸を躍らせドキドキしていました。初日は、少しの不安や緊張と、大きな期待とワクワクでいっぱい的一天でした。

8月13日（火）

谷 星那

長かった11時間のフライトが終わり、不安だった入国審査が終わるとオークランドの街が

広がっていました。

着いた時は自分でも驚くくらい実感がありませんでした。でも、表示が全部英語なのを見て、来たなと思いました。ガイドさんの依子さんと合流し、まずマウントイーデンに行きました。風がとても強くて吹き飛ばされそうになりましたが、そこから眺める景色はすごく綺麗でした。

次に、南半球で一番高いスカイタワーに行きました。頂上に着いた時、ダブルレインボーが見えてみんなテンションがあがりました。昼食は、フィッシュアンドチップスを食べました。すごくボリューム満点で美味しかったです。

昼からはいよいよ待ちに待ったホストファミリーとの対面でした。私もすごく緊張していましたが、みんなも緊張しているのが伝わってきました。自分の名前が呼ばれると、ホストマザーとシスターが迎えにきてくれました。すごく優しく、ハイテンションだったので不安と緊張は吹き飛んでいきました。

とても私を気にかけてくれて安心しました。



ホストマザーとシスターと

8月14日（水）

福原 こと美

この日はウィンターガーデン、オークランド博物館、日本庭園を見学した後、オークランド市役所を表敬訪問しました。オークランド博物館ではニュージーランドの歴史や生態系、マオ

りの歴史や文化などに関する興味深い展示物をたくさん見ることができて、ニュージーランドについて理解を深められた時間でした。私の中で最も印象に残ったのは、ゼロ戦が展示されていたことです。もうすぐ戦争は終わるだろうと思ったニュージーランド人の整備士がこれ以上一人も犠牲者を出さないために、わざとゆっくり修理したと聞いて、やはり平和を願う気持ちは世界共通だったのだなと思いました。



オークランド博物館にて「ゼロ戦」

表敬訪問では私は挨拶をする役割がありました。日本語で挨拶をしている時もしっかりと聞いてくださって、皆で歌を歌った時も皆さん最後まで笑顔で聞いてくださったのがとても心に残っています。ニュージーランドの方の温かさに触れた一日となりました。

8月15日（木）

富田 桜子

授業体験ではバディのグレイスと一緒に日本語と数学の授業を受けました。日本語は道案内の授業でした。私が道案内の出題をして、グレイスは私が話す日本語を一生懸命聞き取っていました。普段より三倍以上遅く話しましたが、グレイスは聞き取り辛そうな顔をしていました。その時、普段私が聞いている授業の英語も現地の英語とは比べ物にならないくらいゆっくりなんだろうなと思いました。数学の授業では翌日のテストに向けての自習でした。みんなが

自習をしている間、先生はゴルフクラブを持って素振りをしていました。シーンとした中でゴルフのクラブが床に当たる「ゴッ」という音が響くというなんとも不思議な教室の中で私はグレイスと自習の合間おしゃべりをしたことが印象に残っています。先生も生徒もあまり時間を気にしていないようでした。私は「5分前行動をしないの？」と衝撃を受けました。日本と全く違う自由な雰囲気羨ましさを感じた1日となりました。



授業体験

8月15日（木）

原 泰也

今日は、ラザフォード・カレッジに行きました。まず初めに、向こうの生徒さんに、歓迎のあいさつのハカを披露していただきました。間近で見たので、とても迫力がありました。そのあとに、僕が代表として、あいさつをしました。ただ原稿を読んだだけだったのですが、ラザフォード・カレッジ留学生担当のミリアム先生に、とてもほめてもらえて良かったです。

そのあとは、デレクというバディに連れて行ってもらって授業を受けました。僕が受けたのは、日本語と数学でした。日本語は僕の母国語ですから、その授業はもちろん簡単でしたが、デレクや彼の友達らがわからなくて困っている姿をみると思わず笑ってしまいました。ただ、外国人はどういった形で日本語を勉強するのかわかったのは、今後のためになりそうで良かった。

たです。

この日、僕とデレクは、お互いのことなどを話して、学校滞在が一瞬に思えるくらい楽しい会話ができました。これが、今回の10日間の中で1番の思い出です！



デレクと

8月16日（金）

三谷 透生

僕は学校訪問をしてたくさんのことに驚きました。まず1、2時間目が終わると軽食休憩があって、いわゆる早弁ができました。授業は自分で決めて入るという日本でいう大学生みたいな感じでした。僕のバディは技術が好きで、何かを作るという授業が多かったのですが、作るものが、スマホスタンドや大きな棚、自転車などで、とてもハイレベルな授業が多かったです。特に自転車を作る授業では、部品から自分で集めて、設計、組み立てと、とても本格的で驚きました。

多民族国家のニュージーランドには思った以上に日本人もたくさんいました。そしてラザフォード・カレッジの生徒達は学校を楽しんでいました。僕のバディも「学校は好きだよ。」と言っていました。日本では、学校というと「しんどい…」みたいなイメージがあるのでそのイメージが無くなるように軽食休憩を入れてほしいと思います。



技術の授業

8月16日（金）

吉岡 歩乃果

今日は学校訪問2日目でした。

前日はバディの速い英語を聞きとるのに苦戦し、悔しい思いをしましたが、今日は頑張ってバディに興味のことや好きなスポーツのことなど思いきって質問してみると、笑顔で答えてくれ、結構会話が弾んだのでとても嬉しかったです。授業も英語が絶えず飛び交う環境でなかなか慣れませんでした。バディも他の友達も困っている私をいつも気にかけてくれ、助けてくれたので楽しく受けることができました。また昼食のお弁当のことですが、日本ではご飯ものに肉、野菜などのおかずが詰められたものが主流ですが、ニュージーランドではシンプルな具のサンドイッチに少々フルーツ、クラッカーなどの軽いものが多く、文化の違いを感じ興味深かったです。



バディと調べ物

今日は英語が少し話せた嬉しさや達成感を感じることができた上、たくさんの人のあたたかい思いやりを感じることができ、おもしろい発見をしたとても良い日だったと思います。

8月17日(土)・18日(日)

荒川 茜理

ドキドキしながら楽しみにしていた2日間のホストデーがやってきました。

1日目は、ホストシスターとショッピングモールに行きました。スーパーでお土産のお菓子を買ったり、雑貨屋さんで買い物をしたりしました。お昼には、巻き寿司を買ってくれました。久しぶりの日本食だったので、すごくおいしかったです。

2日目は、ホストマザーとビーチに行きました。とても寒かったけれど、きれいでした。ぶらぶら散歩をしたり、お店に立ち寄ってみたり、何気ない時間がとても楽しく幸せでした。帰宅後、日本文化紹介をしました。習字でホストマザーとホストシスターの名前を漢字に変えて書きました。すごく喜んでくれ「大切にする」と言ってくれました。また、和柄の折り紙と一緒に鶴を折りました。すごく大変そうで難しそうに折っていて、何度も「これであっているの?」と聞いてきました。ホストシスターが意外にも不器用で、少し形が崩れた鶴になっていました。それが面白くて3人で大笑いしました。



ホストファミリーと一緒に折った鶴

ホストファミリーと過ごした2日間の全ての出来事は、私の大切な思い出になりました。

8月17日(土)・18日(日)

谷 星那

待ちに待ったホストデーがやってきました。

1日目、ホストシスターのサッカーの試合を見に行きました。いつもは少しシャイなホストシスターが、真剣に頑張っていて、シスターのいつもとは違う一面を見ることができました。

2日目、9時ぐらいに起きて「少し遅いかな?」と思っていたのですが、ホストシスター達は10時ぐらいに起きてきました。それが普通なのかと疑問に思い、マザーに聞いてみると「日曜日は寝る日なの」と言われ驚きました。シスターが起きてくると、スーパーとショッピングモールに行きました。昼からマザーのお兄さんの子どもの誕生日パーティーがあるということで、プレゼントを買いました。お兄さんの家に着くと、お兄さん家族とその両親が話しかけてくれて嬉しかったです。お兄さんは画家だそうでアトリエや絵を見せてくれました。



ホストマザーのお兄さんの家で

その後は、ワン・トゥリー・ヒルに行って羊を見ました。黒い羊やかわいい子羊がいて、シスターと「かわいいね」と言いあいました。

すごく楽しかった2日間でした。

8月17日(土)・18日(日)

富田 桜子

ホストデー1日目はホストマザーと元ご主人のデイビットさんと息子のカルロスさんと動物園に行きました。デイビットさんは動物についての知識をたくさん私に教えてくれました。お昼ご飯のハンバーガーは日本でよく食べるものとは比べ物にならないほど美味しく、特にパンがふわふわでした。



オークランド動物園で

夜は引っ越したばかりで、ホストマザーもまだ一度も行ったことがないというデイビットさんと息子さんが住む家に行きました。14階に住んでいてベランダから見える景色は素晴らしかったです。2日目はデイビットさんとカルロスさんと一緒にボウリングに行き、午後はカルロスさんと二人でモノポリーをしました。お昼ご飯はマザーお気に入りのベイクリーのとても美味しいパイを食べ、カルロスさんが床屋さんで髪の毛を切るのに一緒について行ったりもしました。

ホストマザーの家族との日常を一緒に過ごしていくなかで、家族の一員になったような気がしました。

8月17日(土)・18日(日)

原 泰也

まず1日目は朝にホストファザーのサキさんと一緒に彼のお母さんの家に行きまし

た。そこで、サキさんの弟の家族と会いました。その家族もホームステイを受け入れていました。その子は、中国人のジェイダンという13歳の男の子でした。いろんなことを喋れて仲良くなれました。

次に、ホストマザーの弟の子供のネットボールの試合を見に行きました。ネットボールなんて聞いたこともなかったので、いい経験ができました。その後、その家族に連れて行ってもらってビーチに行きました。とってもきれいでした。

その夜、サキさんの弟の家に行って親戚一同で集合して、バーベキューをしてからオールブラックス対豪州の試合を見ました。結果は圧勝だったので、皆さんご機嫌でした！そこでまたジェイダンと再会し、たくさん会話ができて、彼が中国のお土産をくれました。

2日目は、お土産屋さんに行った後、ホストマザーの弟の家族とともにアイススケートをしに行きました。

この2日間はいろんな人にお世話になりました。ありがとうございました。

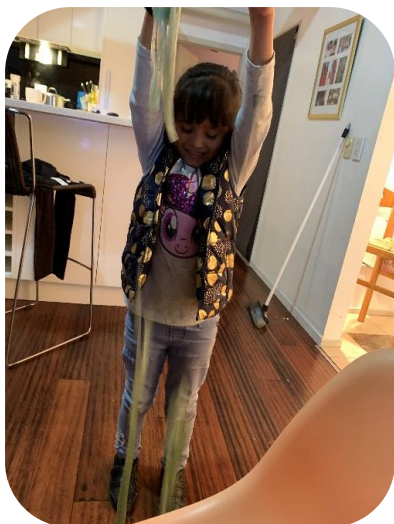


ジェイダンと

8月17日(土)・18日(日)

福原 こと美

ついにホストデーが始まりました。1日目の午前中、日本文化紹介で浴衣を小さい子達に着せてあげたり、ポスターブックを使って自分や家族、友達のことなどを紹介しました。浴衣



ホストシスターとスライム

は、とても綺麗で日本らしいとホストマザーもホストシスター達も喜んでくれて嬉しかったです。日本や加古川のことについてあまり紹介できて

いなかったのが心配だったけれど、拙い英語ですが、この日で、たくさんを紹介できて良かったなと思いました。折り紙をして遊んだり、リビングで日本でも見た事のあるアニメ映画を見たり、とてもリラックスして過ごしました。

午後にはモールに連れて行ってもらいました。日本よりも広くて、観光地じゃない現地のお店だからこそとてもわくわくしました。雑貨屋さんでお土産を買ったり、本屋さんで好きな本の英語版を買ったり、ショッピングを十分に楽しみました。下の子達が調子が悪かったのに、2日間ともお家の外へ連れ出してくれたホストマザーには感謝の気持ちでいっぱいです。

8月17日(土)・18日(日)

松田 彩花

楽しみにしていた2日間のホストデーがやってきました。休日の朝は、日本ほど早く起きずゆっくりしていたので、しっかりとこれまでの疲れも取れ、ホストデーを楽しむことができました。

した。

1日目は、派遣生の吉岡さん、宮平さん、そのホストファミリーと一緒にショッピングモールへ行きました。買い物をする時は、ホストファミリーとは別行動でした。人生初の英語だらけのショッピングモールを自分達だけで動く事になり、少し不安でしたが、分からない時や、困った時には、みんなが私達の片言の英語を熱心に聞き、丁寧に教えてくださいました。

2日目は、私のホストマザー、派遣生の宮平さん、吉岡さんと一緒に1日目よりも大きなショッピングモールへ行きました。ここでも、ホ



ホストマザーとショッピング

ストマザーとは別行動でしたが、いろいろな人に丁寧に接してもらえました。私は、この2日間でニュージーランドの人の優しさや、人種に関係なく接してくれる温かさを感じることができ、とても嬉しかったです。

す。また、自分の英語でコミュニケーションをとる喜びを感じることもでき、自信に繋がりました。

8月17日(土)・18日(日)

松本 志穂

ホストデー1日目。ホストファミリーは午前中、誕生日パーティーに行っていないのでした。その間に私は、日本食を振る舞うために「ぜんざい」を作りました。キッチンの使い方がよくわからず、ちゃんと作ることができたか心配でしたが、うまく作ることができました。ホストファミリーも「甘くて美味しい。」と言って笑顔で食べていました。

午後からはショッピングモールに行きました。雑貨屋や本屋で色々な物を買った後、フードコートでサーモンとカマンベールチーズが入ったサンドイッチを食べました。家に帰る途中、パン屋さんに寄って、ピンク色のクリームがのったカップケーキを買いました。とても美味しかったです。



ホストデーに食べたおやつ

ホストデー2日目。雨が降っていましたが、公園に行きました。ホストファザーが子どもと遊んでいる間、私はアイスクャンデーを買って食べました。美味しかったけれど寒かったです。

ホストファミリーととても楽しい時間を過ごすことができました。

8月17日(土)・18日(日)

三谷 透生

ホストデー1日目。今日はホストファミリーとドライブに行きました。ビーチに行ってアイスクリームを食べました。ホーキーポーキーアイスクリームというニュージーランドでとても人気のものを食べました。ニュージーランドは牛がたくさんいて、牛乳やヨーグルト、バターがとても美味しかったです。夕方からホストブラザーの友達泊まりに来て、一緒にラグビーやバスケットボールをして遊びました。

ホストデー2日目。日曜日はみんなゆっくりするらしく、ホストマザーとファザーは昼頃まで寝ていました。僕はホストブラザーとゲームをしていました。昼過ぎからホストブラザーのハカ教室に行きました。初めて近くでハカを見て、とても迫力がありました。初めは見ていましたが、途中から一緒に入って、体験させてもらいました。カマテという1番王道のハカを踊りました。少し恥ずかしかったけど、他の人にはできない特別な文化を体験できて、心に残る思い出となりました。



ホストブラザーのコナーと

8月17日(土)・18日(日)

宮平 和穂

私のホストマザーがあやか・ほのか・私を連れて少し離れた大きなショッピングモールへ連れて行ってくれました。そこで、マザーとは分かれてしまったので、3人で協力しながらショ



3人でショッピングモールへ

ッピングモールを見て回りました。驚いたのがスーパーのシステムです。1度入ると何か買わなければ出られないシステムに少し困惑してしまいました。

夜はホストマザーの娘さんのザリアとたくさん遊びました。電子辞書を気に入った様子で「ペット」と名付けて遊んでいました。2日目も同じ3人で違うショッピングモールへ連れて行ってもらえました。帰りは祖父母の家へ寄り、その時にグランパがお別れを言ってくれました。とても優しくて温かい祖父母でした。ホストファミリーの家で、ホストファミリーに手紙を書いていると、悲しくて泣きそうになりました。本当に充実した2日間でした。

8月17日(土)・18日(日)

吉岡 歩乃果

今日からは2日間のホストデーでした。

1日目は宮平さん、松田さんと3人で少し離れたショッピングセンターに行きました。マクドナルドに行ったのですがメニューが日本よりも多く、驚きました。また、アイスクリームを食べたのですが、さすがニュージーランドは酪農大国なのでとても濃厚で美味しかったです。2日目も同じように3人で別のショッピングセンターに行きました。そこでキーホルダーなどのたくさんのお土産を買い、またマザーの勤務している図書館に連れて行ってもらいました。マザーが私のために色々な本を紹介してくださって嬉しかったです。

また、この日はホームステイ最後の日だったので、夜に家から持ってきた茶道セットと浴衣でホストファミリーにお茶をたてました。するともものすごく喜んでくださったので嬉しかったです。しかしその後浴衣で踊ってと言われたので下手ながら踊ると大爆笑されました。とても楽しい1日でした。



ホストマザーの勤務先の図書館にて

8月19日(月)

松田 彩花

ホストファミリーに感謝の気持ちを込めてさようならを言い、みんなで雨上がりの輝く芝生が綺麗な公園で写真を撮った後、雲一つない青空のもと、ハミルトンへ向かいました。途中、みんなでギフトショップに行き、それぞれ相手のことを考えながらお土産を選びました。そして、ハミルトンに到着！まず、ワイカト博物館でマオリ族の歴史や、イギリス人との関係について学びました。私は、昔の人の技術とは思えないような彫刻の数々に目を奪われました。次に、ハミルトンガーデンへ行きました。ここでは、2人1組になりガーデン内にある5か所のポイントを巡り、正確にそして1番早く帰ってきたチームには、アイスクリームがプレゼントされるというミッションにチャレンジしました。



ハミルトンガーデンでのミッション

このガーデンは、世界中の国々をイメージした場所なのでとても広く、迷子になりそうでしたが、私達のチームは、1位を取ることができました！40分程で世界一周ができ、とても楽しかったです。

8月20日（火）

宮平 和穂

ホビット村に行きました。ロードオブザリングの映画は少ししか見ていませんでしたが、とても可愛い雰囲気どこを映しても綺麗で可愛い写真が撮れました。ホビット村に行けば、本当に小人に会えそうで、うきうきワクワク感が満載でした。日本にはない雰囲気です。その後連れて行ってもらったティップタップのアイスクリームは大きくてびっくりしました。安いのに、味は抜群に美味しくて寒いけれど食べてしまうニュージーランド人の気持ちがよくわかりました。アイスクリームでお腹いっぱいでしたが、ニュージーランド最後の夜は日本料理のお店に行きました。久しぶりの炊いたご飯と味噌汁が美味しく感激しました。鉄板焼きも本当に美味しくて、幸せでした。サービスもすごく良くて火がブワッとつく所は、感動しました。



最終日の日本料理店

ホテルに戻ると、派遣生みんなで一部屋に集まってヒソヒソ話をしていました。みんなで集まると本当に楽しくて、この時間が終わってほしくないと思うっていました。

8月20日（火）・21日（水）

松本 志穂

ニュージーランドで過ごす最後の夜はあっという間でした。夜、他の派遣生と10日間の話をしたり、荷物の整理をしたりしました。

朝、空港に行って、10日間お世話になったドライバーガイドの依子さんとは別れました。

空港の土産屋さんでみんなでニュージーランド最後の買い物をしました。その時みんなでお揃いのTシャツを買いました。帰りはそのTシャツをみんなで着て帰りました。

飛行機が飛び立つ時、10日間のニュージーランドでのたくさんの楽しい思い出がふと、頭の中で蘇りました。そして、少しさみしい気持ちになりました。

11時間のフライト。気づけば日本に帰って来ていました。



今から日本に帰ります

国際交流センターに帰ってくると、家族や市の職員の方々などたくさんの方が迎えてくださいました。

この10日間の体験は、10人の仲間、引率の方々、まだまだ本当にたくさんの方々の協力のおかげでできた事です。本当にありがとうございました。この経験は一生忘れません。

事後研修

9月8日（日）国際交流センターにて事後研修を実施しました。

研修では、報告書の作成、オークランド市役所と学校訪問で訪れたラザフォード・カレッジへのお礼の色紙作りをしました。また、派遣生から本事業への感想として、「普通の観光旅行ではできない貴重な経験をした」「何事にも挑戦する大切さを学んだ」「現地の人との交流を通して、ニュージーランドの文化や生活を知ることができた」などの声が聞かれました。

帰国報告会

11月3日（日）に「国際交流セミナー」のプログラムの第一部として、国際交流センターで帰国報告会を行いました。派遣生は、現地で経験したことや学んだこと、これから取り組んでいきたいことなどをそれぞれの言葉で報告しました。

「上手な英語でなくても、伝えたい気持ちがあれば伝わるのだと知ることができた。」「多国籍国家で様々な文化がありながら、先住民のマオリ族の文化を大事にし、お互いを理解しようとしている姿勢に感銘を受けた。」と派遣を通して学んだことや感じたことを発表しました。堂々と報告する派遣生の姿からは、今回の派遣で大きく成長した様子が感じ取られました。

帰国報告会に出席された岡田市長は、「若い時に、海外で体験され感じたことは、今後の人生の様々な場面で必ず大きな糧になると思います。」と述べられました。



発表する派遣生



岡田市長の挨拶

団員レポート

かけがえのない宝物

志方中学校

荒川 茜理

私は小学校6年生の時に、この事業を知りました。海外という未知の世界で、10日間も過ごすことを想像すると、とてもワクワクし、心の底から「行ってみたい!」という気持ち がわき、応募を決めました。そのため、この海外派遣の合格がわかった時は、笑みが止まらない程のうれしさの反面、半信半疑で「ホンマに!？」と何度も確認した程です。しかし、正直ニュージーランドへ行くという実感はあまりありませんでした。でも、研修を重ね準備をしていくうちに、「本当に私が行けるんだ!」という実感がわき、未知の世界にワクワクしてきました。

出発の日、私は成長した姿で帰ってくることをみんなの前で決意表明しました。その時に、「ついにニュージーランドに行く日が来た!」と実感し、ドキドキしました。11時間という体験したことのない長いフライトは、思ったよりも快適でした。ニュージーランド



空港に向かうバスの中



ホストマザーと

に着き、耳に流れてくる言葉は当たり前だけれど英語です。何事も無いように平気な顔をしながらも、流暢な英語に圧倒され「本当に自分の英語力で大丈夫かな」と心の中では、少し弱気になったりもしました。

観光をして、フィッシュアンドチップスを食べ、初めてのニュージーランドを満喫しました。そして不安に思いつながらも、一番楽しみにドキドキしながら待っていた、ホストファミリーとの対面の時がやってきました。私の名前を呼んだのは、きれいで優しいホストシスターでした。会うと笑顔で私をハグしてくれました。緊張や不安も解け、温かく迎えてくれたことが嬉しかったです。ホストファミリーの家で過ごす一日目の夜は、ドキドキしながらも、ホストマザーとホストシスターの笑顔で安心して過ごせました。寝る前に、ホストマザーが、私のおでこにキスしてくれた時は、ホストマザーの

優しさと愛情を感じました。日が経つごとに耳が慣れ、ホストマザーの言葉も聞き取れるようになってきました。

ホストデーには、ホストマザーとビーチに行ったり、ホストシスターと3人でショッピングモールに行ったりしました。夜には、3人で映画を観ながら、楽しくまったりとした時間を過ごしました。お別れの時は、何度も私を抱きしめてくれました。日本から来て、英語も十分に話せない私に優しく温かくしてくれたことや、一緒にご飯を食べたり、映画を観たりしたことは、私にとってかけがえのない宝物です。



バディと一緒に

と思いました。私もバディとすぐに仲良くなれたし、授業が一緒だった人も私に優しくしてくれました。そして、色々な国の人がいる中でも、「マオリ」というニュージーランドの先住民族は、とても大切に守られていました。博物館やラザフォード・カレッジで見たマオリの伝統的な踊り「ハカ」は、迫力がありすごくカッコ良かったです。ニュージーランドの人達は、自分達の伝統に誇りを持ち、その伝統的な文化を、みんなで守っていることがすごいと思いました。

私は、この海外派遣でたくさんの人の温かさに触れました。日本から来て、上手に英語を話せない私に、ニュージーランドの人は優しく接してくれました。そのおかげで私も、堂々と自分らしくでき、心の底から楽しむことができました。生まれた国や話す言葉が違って、人は繋がることができると知りました。ニュージーランドで体験したことや、学んだことを私のこれからの成長に繋げていきたいです。そして、この体験が私のスタートとなるようにしたいと思います。最後に、この派遣事業に携わり、私を支えてくださったすべての人に感謝を伝えたいと思います。本当にありがとうございました。



マオリのハカ

団員レポート

夢の国 ニュージーランド

浜の宮中学校

谷 星那

加古川市が、中学生をニュージーランドに派遣する事業があると広報で知ったのは中学2年生の時、今回2度目の挑戦でした。「今度こそ」と思い友達や先生の協力のもとチャレンジし、合格したと分かった時は信じられなくて何度も自分の受験番号を確認しました。合格と分かってからは、楽しみと同時に不安が募っていきました。でも、研修をしていくうちに、この派遣メンバーとなら大丈夫という気持ちになっていきました。

いよいよ出発の日。出発式を終え、たくさんの人に見送られながら、加古川、そして日本を出発しました。移動のバスがすごく楽しかったのが印象的です。ニュージーランドに着くと日本の暑さとは対照的に、冷たい風が肌にあたり、「いよいよ始まるのだな」と実感しました。

私のホストファミリーは、ホストシスターやブラザーが幼い頃から受け入れをしているファミリーでした。初日は、緊張している私に「心配ないわ」と話してくれて緊張をといてくれました。日が経つにつれ、最初はゆっくり話してくれていたのが、段々速く



ホストシスターと

なっていくように感じました。ホストシスター達は少しシャイでした。でも私には歳の近い姉や妹がいないので、すごく新鮮でした。シスターとは本当の姉妹みたいで、最後プレゼントをもらった時は離れたくないと強く思いました。手紙に「絶対またおいで」と書いてあるのを見たときは、「絶対来る」とファミリーと約束しました。

8月15日、16日に登校したラザフォード・カレッジでは、マオリ式の歓迎式をしてくれました。ハカは思わず息をするのを忘れ



迫力満点のハカ



バディと

てしまうような迫力があり、魅了されました。日本とは全然違う文化を知る良い機会でした。バディのアリシアは、同級生とは思えないほど大人っぽくて、自分が幼く感じました。でも、日本語を話すアリシアはすごく可愛くて忘れられません。アリシアはすごく優しく将来は音楽の先生になりたいというぐらい音楽が大好きな子で、話していてすごく楽しかったです。休み時間には韓国人の男の子や日本に住んでいた女の子が話しかけてくれました。学校生活が

日本と全然違うはずなのに、不思議と馴染めている自分に変な感じでした。お弁当も、私がいつも学校に持っていつている物とは違っていて、すごく新鮮でした。

ホストファミリーと別れた19日。2日間英語しか喋っていなかったのも、日本語を喋ったときは日本語を話す相手がいることに喜びを感じました。

20日はロード・オブ・ザ・リングのロケ地であるホビット村に行きました。日本にいたときからずっと楽しみにしており、映画の風景が目の前にあったときは信じられない気持ちでした。そのツアーが終わると、昼食を食べ、アイスクリーム屋に行きました。ニュージーランドのアイスは一つ一つが大きくてすごく種類がありとても美味しかったです。でも、季節は冬で、しかも外で食べたので、すごく冷えました。あの寒さの中で食べたアイスの味は、一生忘れません。21日は、空港の中で派遣メンバー10人おそろいのピンクのTシャツを買って、帰国しました。

私は、このあっという間に過ぎていったニュージーランドでの10日間の生活で、英語は、正しい文法や正しい発音よりも、伝えたいという気持ちさえあれば伝わるということを感じました。また、ニュージーランドで出会った人々がよく「ありがとう」と言っているのを聞きました。日本人よりも自分の気持ちをストレートに表現することは、とてもすごいし、素敵だと思いました。人生では一瞬かもしれない10日間ですが、一生の宝物になった海外派遣のおかげで、英語力はもちろんのこと、私自身の殻を破ることができた体験になりました。これからは、英語力を今よりも上げていき、今回よりもスムーズに会話ができるように頑張っていきたいと思います。

最後になりますが、快く送り出してくれた家族、協力してくれた先生方、友達、福本さん、大橋先生、そして10日間一緒にすごしてくれた9人の仲間に感謝します。ありがとうございました。



ホビット村で

団員レポート

かけがえのない10日間

陵南中学校

富田 桜子

このまとめを書いていて、ニュージーランドのことを思い出すと、本当のことだったのか？と思うほど、夢のように一瞬にして過ぎ去ってしまった10日間でした。

私がこの海外派遣事業の面接を受けた後、両親が迎えに来てくれた車の中で、思うようにできず悔しくて号泣したのを覚えています。そんなこともあって、5倍近くあった倍率の中で自分が選ばれたと分かった時は、今まで受けてきた試験の合格の中で一番嬉しかったです。

私のホストファミリーはヤソダーラさんという女性一人暮らしのお宅でした。行く前は「一人」という数字が頭の中でグルグルと回りとても不安でしたが、会った瞬間にマザーの太陽のような笑顔に不安が吹っ飛びました。マザーはとても真剣に私の英語に相づちをたくさん打ちながら聞いてくれました。そのおかげで、話すのが楽しく感じることができました。毎日シャワーを浴びた後に、私が



ホストマザーと



毎日通ったバス停

作った紅茶を飲みながら今日あった出来事を話すのが、とても楽しかったです。ホストデーの二日間も接待されるような特別なものではなく、家族の一人のようにマザーの日常生活と一緒に過ごしました。ホームステイは観光するだけじゃわからないニュージーランドのことをたくさん知ることができました。

私は市バスに乗って学校に通っていたのですが、日本のバスもほとんど乗ったことのない私にとって海外で一人で、しかもスクールバスではなく市バスに乗るというのはとても不安でした。初めてバスに乗る日、マザーがバス停まで送ってくれて、バス停までの行き方・乗るバス・降りるバス停を丁寧に教えてくれました。それでも一人で行く2日目は不安だったのです

が、同じバス停から乗る韓国人の男の子がいて、その子がいつも私を助けてくれました。そのバス停には3路線のバスが停車するのですが、間違えないように乗るバスを教えてく



パディと一緒に

れたり、降りたバス停から学校に行くまでの間に話しかけてくれたり、雨が降っていたら傘をさしてくれたり、とても親切にしてくれて本当に感謝しています。バスの中ではたくさんの生徒が日本の授業で聞く英語の2倍速ぐらいで話していました。何日かしてくると、速い英語に耳が慣れて話していることがだいたい分かってきて「今日のテストの勉強あまりしてない」「気になる男の子がいるけど、どうしたらいい？」など言語は違うけれど、話していることは日本の学生と変わ

らないなあ面白く聞いていました。最初はバスに乗ることがとても不安でしたが、日が経つごとに、とても楽しいバス通学となりました。

派遣団のみんなと過ごした中で、一番楽しかったのは9日目のホビット村観光の日でした。ホビット村は映画そのもので、とても美しかったです。観光の後、ガイドの依子さんアイスクリーム屋さんに連れて行ってくださいました。私は8月13日が誕生日だったので、誕生祝いに福本さんと大橋先生から4個のアイスをプレゼントしてもらいました。ニュージーランドのアイスは日本のアイスとは少し違ってすごく美味しかったです。濃厚なんですけど、食べた後に爽やかさが広がり4個でも食べられる美味しさでした。その日はとても寒く、風が吹く中でみんなでアイスクリームを食べました。みんな震えながらも、おいしそうに食べていた姿は一生忘れません。

ニュージーランドで過ごした日々は、夢のように一瞬だったけど、とても鮮やかで私の中に確かな手応えとして残る特別なものとなりました。

一生忘れない体験を共に過ごした仲間たち、現地の方々、家族、国際交流協会の皆様に感謝しています。

本当にありがとうございました。



ホビット村で

団員レポート

10日間のいろんな経験

白陵中学校

原 泰也

合計5回の事前研修を終え、8月12日ついにこの派遣が始まりました。ニュージーランド航空の思いのほか心地よかったフライトを終え、僕にとって初めての外国となるニュージーランドの地についに降り立ちました。どのような感じで、外国の実感がわくのだろうかとずっと思案していましたが、結局この10日間でその実感はあまり湧きませんでした。その理由はニュージーランドが

日本ととても似ていたからです。これが1つ目の心に残った点です。そもそも、ニュージーランドと日本は、気候や地形など自然環境の面でも似ています。さらに街並みも日本と似ていると感じました。オークランドはニュージーランド最大の都市であるにも関わらず、中心街でもとても綺麗でポイ捨てがほとんどなく清潔なところでした。また、人口が100万を超える大都市でありながら自然がたくさん見られました。つまり都市計画が上手なのではないかと思いました。そこは、日本と似ているというか、日本より優れているポイントであり、見習うべきポイントだなと思いました。また、日本車がとても多く、過半数を占めるくらいで、とても驚きました。



クイーンズストリート



バディと

まだまだ似ている点がありますが、決定的に違う点もありました。それは、ニュージーランドは多文化共生社会であるということです。これが2つ目の心に残った点です。学校訪問をしたとき、バディのデレクに「この教室の何割くらいが外国人なの？」と聞くと、「4割くらいかな。」と答えてくれました。実際に、デレクはフィリピン人で、他にも韓国やポーランド、インド、アラブ首長国連邦、中国などから来ている人もいましたし、僕のホストファザー

はサモア出身でした。日本では外国人観光客は多いものの、長く住む人は少なく、日本で外国人を見かけると、僕はなにか非日常的なものを見たような気になります。たくさんの国の人が同じところに当たり前のようにいることが僕にとっては衝撃的でした。

ただ、外国人であれ、ニュージーランドに住んでいる多くの人は、ニュージーランドを大切にし、また誇りに思っていました。これが、3つ目の心に残った点です。ホストデーにオールブラックスの試合があったので、ホストファミリーの親戚皆でテレビを前に応援しました。皆さん一生懸命応援して、特に試合前のハカの時はとても得意げな目をされていました。これは一例にすぎず、いろんなところにマオリの建物などがあつたり、食料品は、地産地消のために少々高かったですが、その値段よりも、ニュージーランドで作ることを優先していました。



ハミルトンガーデンで

初めての経験ばかりの日々でしたが、今回1番楽しかったのはバディと会話したことです。お互いの国や家族など、いろんなことを話しました。自分にとっては当たり前と思っていたことでも、バディと話すことによって当たり前ではないのだと改めて意識させられました。本当に、たくさんのことを喋りました。授業で意味の分からない単語が出てきて、これでもかというくらい聞いても丁寧に教えてくれました。また、バディだけでなく、彼の友達もとてもやさしくて、僕の周りに常にだれかがいてくれているという状況に喜び、同時に感謝の念を抱きました。

ニュージーランドに行く前は、10日間は長いと思っていました。しかし、実際は一瞬でした。その貴重なホームステイの時間を僕は少し無駄にしてしまったところがありました。このように、今回の海外派遣では、楽しかったことばかりではなく、悔やまれることや反省すべきこともたくさんありました。だから、それらすべての思い出を今後の自分につなげていこうと思います。

最後に、僕がこのような一生モノの体験をできたのは、数えきれないくらいの方々のおかげです。本当にありがとうございました。



ホビット村

団員レポート

優しさと温かさに溢れた10日間

中部中学校

福原 こと美

私がニュージーランドで過ごした10日間は、不安や緊張が大きかったけれど、それを超える優しさや温かさに出会えた旅となりました。

私が1番不安だったのは、英語が話せるかどうかではなく、聞き取れるかどうかでした。不安は的中で、ホストマザーと初めて対面した時、本当に何を言っているか分かりませんでした。簡単な質問にも動揺して、答える文も頭の中に浮かびませんでした。話したい気持ち、挑戦しようとする思いはあるのですが、そも

そも何を話しているのかが分からなくて、最初はどうすることもできませんでした。誰か友達やお客さんが来る度に、ホストマザーは私を紹介してくれるのですが、その時、「こと美は英語が話せないの。」と言われました。それは優しさと分かっているし、実際そうなの

ですが、とても悔しかったです。でも、どの人もゆっくりと私が聞き取れるように話してくれたし、時にはジョークで笑わせてくれることもありました。何度聞き返しても嫌な顔をされたことはありませんでした。初日にホストマザーが、ここは私の家であり、貴方の家でもあるんだからねと言ってくれた時は、こんな優しい人のお家にホームステイをすることができるのかと思い、不安と緊張が少しずつ解けていきました。ホームパーティー中、私があまり英語が話せなくて自室にこもってしまった時も、「折角なんだから文化交流を楽しもう、皆も貴方と話すのを楽しみにしているよ。」と言ってリビングに連れ出してくれたこともありました。ホストマザーには、本当に感謝の気持ちしかありません。



とてもかわいいホストブラザー



スカイタワーから最高の景色



バディと一緒に授業

だんだん耳が慣れてきて、速い英語の中からも分かる言葉がでてくるようになり、家族の会話に入ることができた時は、すごく嬉しかったのをはっきりと覚えています。そしてホストデーの日、日本文化の浴衣などを紹介する時、ホストマザーもホストシスターも私の下手な英語をしっかりと聞いてくれて、小さいホストシスターが日本のことが好きになったと言ってくれたことに感謝と感動を感じました。ニュージーランドの方の優しさと温かさに触れて、英語で会話をする、自国の文化を紹介し相手の文化を教えることの楽しさに気づき、もっと真剣に英語を勉強したいと思うようになったホームステイでした。

学校訪問で訪れたラザフォード・カレッジの第一印象は「自由」でした。日本の学校の雰囲気

気とはほぼ真逆で、驚きの連続でした。2時間目の休み時間にお菓子やお弁当を食べる時間があったり、ランチは廊下や階段に座って食べたりしていて、どれもとても新鮮で面白い体験でした。英語に加えて日本語や中国語など、様々な言語が飛び交っていて、多国籍国家だということを感じることもできました。バディのコニーは少しシャイな子だったけど、2日間趣味のことや学校のことなどたくさん教えてくれて、とても優しい女の子でした。優しかったのはコニーだけでなく、ラザフォード・カレッジの生徒さん全員がすごく親切で優しかったです。学校で迷ってしまった時も「大丈夫？」と声をかけてくれて案内をしてくれた子もいました。バディじゃない子でも、授業内容を教えてくれたり、教科書を見せてくれたりしました。普通の観光じゃ絶対にできない貴重な体験であったし、ここでもまたたくさんの人の優しさに触れることができました。

この10日間で私は、文化の違いとともに、たくさんの人の思いやりや親切に触れました。国が違って言葉があまり分からなくても、温かい気持ちはしっかりと伝わってきました。そして、ニュージーランドの素晴らしさにも、日本の素晴らしさにも気づくことができました。本当に素敵で有意義で、大きく成長できた10日間でした。こんな経験ができたのは支えて応援してくれた家族や友達や先生方、ニュージーランドで出会えた全ての方々、引率の福本さん、大橋先生、そして9人の最高の仲間のおかげです。最高の10日間を本当にありがとうございました！



あやかちゃんとお揃いのキウィ

団員レポート

かけがえのない宝物

賢明女子学院中学校

松田 彩花

「合格」この2文字が私の平凡だったはずの夏休みを大きく変えることとなりました。私は、まさか自分が選んで頂けるとは思っていなかったので、ホームページで自分の番号を見つけた時、こみ上げてくる嬉しさと同時に不安も押し寄せてきました。しかし、その不安の山は、この貴重な経験を1つ1つ積み重ねることで、幸せの山へと変わっていきました。このような心の変化があったのは、この10日間が私にとってかけがえのない宝物になったからです。

私は、この海外派遣を通してたくさんのことを学びました。その中でも素敵だなと感じたことが3つあります。

まず1つ目は、マオリの文化です。ニュージーランドは、移民の国なので、いろいろな国の人がいて、いろいろな文化があります。私は、文化と文化がぶつかり合うのではないかと考えていました。しかし、ニュージーランドは、それぞれの文化を大切に尊重しあう素敵な国でした。私は、いろんな文化が共存していることにも驚きましたが、違う文化が入ってきたにもかかわらず、ニュージーランドの元々のマオリの文化が、しっかりと残されていることと、それを世代に関係なくいろんな人がマオリショーなどの形で伝えていっているということに感動しました。特にマオリショーは、すごい迫力で、ショーが始まったとたん、場の空気がガラリと変わりました。私も自分たちの文化を大切にし、尊重できる人になりたいと思いました。



迫力満点マオリショー



バディと

2つ目は、ラザフォード・カレッジでの授業体験です。日本での私のクラスの中は、全員が日本人で、みんな同じような感じで授業を受けているのですが、ここでは1つの教室の中にいろんな国の人がいて、それぞれに個性が輝いていました。また、私は、まだ「自

分」というものが何なのかが見つかっておらず、「自分」を探しているところなのですが、ラザフォード・カレッジの生徒は、なんだかとても生き生きと生きて「自分」を持っているように感じました。海の向こうとはいえ、同じ世界にいる同世代の人たちがこんなにも生き生きと生きて「自分」を持っていたので、私は、自分の未熟さを感じ、もっとたくさんのいろいろな経験を積んでステキな「自分」を見つけたいと思うようになり、良い刺激がもらえたと思っています。また、1つの学校の中で、いろんな国の人が何の壁もなく仲良くしている様子を見ると世界の広さを感じました。それと同時に、日本人としてもっと視野を広く持つべきだと考えさせられました。

3つ目は、心は言葉の壁を越えるのだという事です。私は、初め、ホストマザーの話す英語が速くて、よく聞き取れませんでした。しかし、次第に耳が慣れ、少しずつ分かるようになり、テレビの内容で面白いと思うところが同じで一緒に笑ったり、暖炉の音が好きで一緒に温もったりと言葉や文化が違って心でつながれることが何度もあり、とても嬉しかったです。心の耳を傾け、距離を近づけると相手の言いたいことが分かるようになるということを実感したので、これからもこの経験を生かして、異文化に触れていきたいと思います。

最後に、この経験のおかげで私の考え方や心の中は大きく変わることができました。私は、最高の仲間と最高の10日間を過ごせたことによって、一生の宝となる経験や、仲間とのかけがえのない数々の思い出を手に入れることができました。これからも派遣中の気持ちを忘れず、何にでも積極的にチャレンジしていきたいです。また、ニュージーランドでいろんな人に出会えたことによって、もっと視野を広げて考え、行動できる国際的な人になりたいと思ったので、もっと英語を勉強したいと思っています。



おそろいのキウィバードをゲット



ホストマザーと愛犬グッチのお散歩

この機会を与えてくださった国際交流協会のみなさん、現地でお世話になった方々、支えてくれた家族、そして、引率してくださった先生方や10日間笑いあえた最高のメンバーに感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。

団員レポート

忘れられない10日間

加古川中学校

松本 志穂

私がこの海外派遣事業を知ったのは中学1年の時でとても興味があり、応募しました。今回、3度目の挑戦で最後の挑戦でもありました。学校から帰って来て、母から「合格してたよ。おめでとう！」と言われたときは、本当に嬉しかったです。私の英語が通じるのか、ホストファミリーと上手くやっていけるかなど様々な心配な気持ちもありましたが、どんな事どんな体験ができるのか、どんな人に出会えるのかなど楽しみでワクワクしている気持ちのほうが大きかったです。

いよいよやって来た出発の日。たくさんの方々に見送られ出発しました。他の派遣生とはバスの中でたくさん話して、仲良くなることができました。そして、10時間以上のフライトを経て、ニュージーランドに到着しました。日本の季節と反対の冬だったので、寒かったです。着いた日の市内見学で、スカイタワーに行きました。少し雨が降った後だった

ので、虹を見ることができました。オークランドの町に架かる大きな虹はとても美しかったです。絵に描いたような虹で、今まで見たことがないくらいきれいにくっきりとした



オークランドにかかる虹

形でした。お昼ご飯にはフィッシュ&チップスを食べました。思っていたよりも、フィッシュが大きくて、「外国サイズだな〜。」と思いました。衣がサクサクで、中は白身魚でサッパリしていて美味しかったです。



フィッシュ&チップス

お昼ご飯の後は、いよいよホストファミリーとの対面です。ワクワクする楽しい気持ちとドキドキする緊張の気持ちが、私の中で入り混じっていま

した。ついにホストマザーが迎えに来ました。自己紹介や会えて嬉しい事などを一生懸命伝えました。ちゃんと自分の気持ちがホストマザーに伝わったのでとても嬉しかったです。ホストファミリーの家では雑談をしたり、一緒にテレビを見たり、2歳のホストブラザーと遊ぶなどたくさんことをしました。中でも一番楽しかったのは、ホストファザーにギターを教えてもらって一緒にひいたことです。ホストファザーはギターがとても上手くて、丁寧に教えてくれました。楽しかったし、もっとうまくなりたいと思いました。そんなたくさんの楽しい思い出がいっぱいのホストファミリーと別れるときは本当に悲しかったです。

また、学校訪問でラザフォード・カレッジに2日間通いました。バディのジェイドは緊張している私に話しかけてくれて、すぐに仲良くなることができました。ラザフォード・カレッジはとても自由な校風で、先生方も優しく面白い方ばかりで授業も楽しかったです。けれど一番楽しかったのは、バディとバディの友達とみなでお昼ご飯を食べたことです。日本の学校とは違った2日間を過ごすことができ、楽しかったです。

この10日間で、一番印象に残っているのは、ホビット村に行ったことです。1年程前に「ロード・オブ・ザ・リング」を見ていたこともあり、実際にホビット村に行けてとても嬉しかったです。ホビット村の独特な形の家がたくさんあり、その一つ一つにも魚屋さんやパン屋さんなどの設定があり、可愛かったし、面白かったです。ホビット村のガイドさんがホビット村や「ロード・オブ・ザ・リング」の撮影をした時のちょっとしたエピソードなども教えてくださり、より楽しむことができました。緑竜館というところで最後にジンジャービールを飲みました。強炭酸でシュワシュワして美味しかったです。



ホストマザーと



バディと一緒に授業

初めての長いフライト、初めてのホームステイ、初めての外国でできた友達、初めてみる景色…この10日間、新しい出会いや発見ができたことは私にとってとても素晴らしい経験になりました。これもすべて、たくさんの方々の協力のおかげだと思います。本当にありがとうございました。この10日間の様々な体験と経験をこれから役立てていきたいと思っています。

団員レポート

英語圏で過ごす楽しさと大変さ

別府中学校

三谷 透生

僕はこの海外派遣でたくさんのことを学び、感じました。まず、僕は言葉の壁にぶつかりました。ホストファミリーと過ごす時に、最初は本当に困りました。夕食の時に家族で会話しているけど、何を言っているか全く分からないし、「僕はこの場所で生きていけない。」とまで思いました。自分が今まで習ってきた中学英語とは全然違うし、イントネーションやスピードも全く比にならないほど速くて聞き取れなかったのです。「単語、単語は聞き取れるけど頭が追いつかない。」みたいな状態でした。けれども、時間が経つにつれて、少しずつ慣れてきました。それに、ホストブラザーが気さくに話しかけてくれたので打ち解けることもできました。ホストファミリーとはいろいろな話をしましたが、英語の先生になりたいという僕の将来の夢を話した時、ホストファミリーになぜ英語の先生になりたいのかと聞かれ言いたいことが上手く口からでなくて、「英語が好きだからです。」としか言えず、とても悔しい思いをしました。その時、こんな状態の僕が英語の先生になりたいと言っていいのかと後ろ向きなことを思ってしまいました。でも



ホストマザーと



みんなで食べたフィッシュ&チップス

よく考えてみると、この海外派遣中に英語でたくさん話すことが、自分の夢を叶える1番の近道なんだと思いました。それからはホストファミリーとたくさんコミュニケーションをとりました。また、言葉でつまづいた分、スポーツや音楽、芸術などが世界を繋ぐというのは本当なんだと感ずることができました。スポーツをしている時は、言葉を使わない、だから気負わず本気で楽しむことができました。ニュージーランドでは、ラグビーが有名でテレビでオールブ

ラックスの試合を見ていた時もホストファミリーと一緒に熱くなることができました。

ホストファミリーと過ごす休日ではビーチにドライブに行ったり、ハカ教室に行ったりと、有意義な休日を過ごせました。特にハカ教室ではマオリ族のハカを踊ってみるという体験ができました。ハカとは、マオリ族の戦士が戦いの前に自分の力を誇示し、相手を威嚇する舞踊で、初めは少し恥ずかしかったけど、周りの子どもたちが真剣にやっていたので、僕も真剣にしてみたら達成感みたいなものがあって楽しかったです。マオリの文化や伝統を、小さなこどもから大人まで、様々な世代が受け継いでいることは、本当にすごいと思いました。

ホストファミリーと過ごす時間以外では、学校訪問でも大きなカルチャーショックを受けました。学校訪問ではスクールバディといって、加古川の派遣生一人一人についてくれる現地の生徒がいました。「どんな子が僕のパディになるのかな？」と緊張していると、現れたのが大柄な黒人の男の子で、会った瞬間とても驚きました。でも話してみるととても優しく、「こんな優しい人が海外にいるのか！」と少し感動させられました。海外の学校は、日本の学校よりも自由だと聞いていましたが、僕が行っていたラザフォード・カレッジは予想以上に自由で、堅苦しい雰囲気ではなく、笑い声の飛び交うような授業もたくさんありました。学校のルールも日本と違うところも多く、文化の違いを身をもって感じました。僕のパディは技術系が好きで技術の授業をたくさん選択していました。その内容は、とても中学生、高校生がやるような授業ではない高いレベルのものでした。1番驚いたのは、授業で自転車を手作りしていたことです。自分で部品から集めて、設計していたことに驚くとともにすごいなと思いました。また、社会の授業に行った時は英語で貧困問題について考えて、頭がこんがらがりました。授業内容は基本的に日本と一緒にでしたが、それを英語で勉強するのが難しかったです。

僕は、ニュージーランドに行くことができて本当に良かったと思います。ただの海外旅行ではなく、人種や先住民族、歴史についても学び、物事を多面的に見るようになり、た

くさんの人とふれあい、交流し、自分の英語力を高めることもできました。人生の中で記憶に残る10日間になったと思います。

最後に、選考会に向けての面接練習や作文などアドバイスをくれた先生や友達、快く送り出してくれた家族に感謝したいです。本当にニュージーランドに行かせていただきありがとうございます。これからはこの経験を生かして、高校受験や将来について考えていきたいです。



パディのハッシュ



ラザフォード・カレッジでパンケーキ作り

団員レポート

体験に勝るものはないと体感した10日間

別府中学校

宮平 和穂

飛行機の中から見たニュージーランドは、緑がいっぱいの島でした。11時間のフライト。とてもしんどいものではありませんでしたが、朝日がとても綺麗で、それを超える感動がありました。ニュージーランドと日本の時差は3時間、あまり時差ボケは感じなかったけれども、やはり異国。雰囲気の違いに圧倒されました。聞こえてくる言葉はほとんど英語。たまに中国語や韓国語なども聞こえてくる、まさに多国籍国家でした。ホストマザーと対面した時は、英語が本当にわからなくて、何回も心が折れそ

うになりました。どう表現したらいいのかが分からない、頭の中で文章が上手く完成しない、合っているのか分からない、自分が思ったように英語を喋ることはできませんでした。自分の力不足に何度も辛い思いをして、毎日毎日晚になると電子辞書を使って表現できなかった単語を調べていました。そのため、その単語を使えた時に伝わったことがすごく嬉しく、「よし、もっと頑張ろう」と自分を奮い立たせることができました。晩御飯はグランマの家に食べに行くことが多く、とても優しいグランマとグランパが、私にいつもよくしてくれました。



ホストファミリーと

くしてくれました。みんな人柄がすごく良く、私が洗い物をしていると、「和穂はいい嫁になるよ」と笑わせてくれたりもする楽しい家庭でした。グランマには日本料理が好きな兄がいるらしく、日本料理の味噌についてよく聞かれました。ただ、グランマの英語はゆっくりだけれども難しく、私には上手く聞き取ることができなかったです。何回も何回も「ワンスモアプリーズ」と聞いてしまったことが悔しかったです。グランマもそんな私を理解してくれて何回



ホストファミリーが渡してくれたお弁当

も易しい単語で教えてくれて、英語で会話することの楽しさがわかりました。数日すると会話にも慣れてきて、少しずつ聞き取ることができるようになってきました。最初はイエスカノーしか言えなくても、短い文なら口に出すことができるようになり、嬉しかったです。

学校体験では私と同世代の学生たちと一緒に授業を受けたり食事をしたりで、またホームステイとは違ったドキドキがありました。バディのラヘルは明るく私によく気を配ってくれました。ラヘルの友達との交流も、新鮮

でいい経験になりました。授業風景なども、日本とは正反対と言っても過言ではありませんでした。テストのときも自分の必要なものを取りに行ったり、チャイムと同時に全員が終わりの挨拶をするのではなく、自分の課題を終えたら荷物を持って教室から出て行ったりしました。それを見て驚きを隠せなかったです。バディもそんな私を「何かおかしいの？」というような目で見てくるので、当たり前の違いを感じました。バディともっと英語で話したかったという心残りがあります。この2日間、日本とニュージーランドの違いを実感できた体験になりました。

学校訪問の2日間が終わると、次の日からはずっと楽しみにしていたホストデーでした。1日目のホストデーの時は私のホストマザーがショッピングモールに連れて行ってく

れました。みんなの前で英語を喋ったことがなかったので、私がマザーと会話をするのを聞かれて、少し緊張して車の中なのにカチンコチンになっていました。ホストデーの2日間は、あやかとほのかと一緒に行動する2日間で、割と自由でしたが、システムの違いなどに戸惑うことが多かったです。その晩は、私が日本から持って行ったお味噌汁と白ご飯を出しました。とても喜んでもらえたので嬉しかったです。ホストデー2日目の夜は、お別れの最後の夜だったので、布団に入ると寂しくなりました。朝を迎えて、支度をしているとホストマザーの娘のザリアが私に抱きつき「行かないで」と言ってくれたのが嬉しかったけれど、ホストファミリーと別れるのはとても辛かったです。本当に帰りたくない気持ちでいっぱいでした。また行きたい！そう思える素敵な国でした。



バディと理科の授業中



図書館にて

団員レポート

私のニュージーランドでの日々

白陵中学校

吉岡 歩乃果

私が加古川市が中学生海外派遣事業を実施しているのを知ったのは締め切りのたった一週間前でした。元々短期留学に興味を持っていたのですが、ホームステイに現地の学校訪問など多彩で魅力的なプログラムに惹かれ、私は意地でも行きたいとすぐにとびつき、バタバタと申込書を出しました。結果は合格。結果を知ったのは部活の試合場だったにもかかわらず泣いて喜びました。それから出発までは特に不安は感じず、ただまだ見たこともないニュージーランドの景色を想像し、期待を膨らませていた日々でした。

長い時間をかけ、いざ着くと広がっていたのは、たくさんの英語表記の道路標識や看板、広告、どこまでも続く牧草地帯の緑、バスの車窓から切り取られた様々なニュージーランドの景色1枚1枚がどれも初めてで新鮮でした。

現地では、オークランド博物館見学や市役所の表敬訪問、学校訪問、ハミルトンでのホビット村観光など数えきれないほどの素敵な経験をさせてもらいました。その中で

も、博物館と学校でみたマオリの踊り、ハカを披露してもらったことの印象が強く残っています。人と人が一体となり全身で士気をあげようとする熱い姿と迫力に最初は圧倒され、声が出せませんでした。そして自分たちの熱意を表現するのに一生懸命になろうとすることを見習いたいと強く感じました。また高台から見た、虹とともに映るオークランドの緑、海、街とが調和した景色と、夜に部屋の窓から覗いた南十字星が美しかったことをよく覚えています。



散歩中に撮った景色



マオリの生徒と

しかし私にとってホストファミリーと過ごした時間がやはりものすごくかけがえのない時間でした。私のホストファミリーは奥さんと旦那さんの二人でした。最初迎え入れてくれた時には自分の気持ちを英語で表現するのはとても難しかったですが、日が経つにつれて会話がどんどん楽しくなってって、テレビを見ながら会話し、団らんする時間が1日の楽しみになりました。最終日に私がホストファミリーのために浴衣で抹茶をたてると動画まで撮っても



ホストファミリーと

のすごく喜んでくれて、さらに日本に興味を持ってくださり、また同時に、進んでモアナの映画などを通してニュージーランドの文化を私に紹介してくださったのが本当に本当に心から嬉しかったです。「センキュー」というと「マイ プレジャー」と返してくれた優しいホストファミリーの笑顔が目に焼き付いています。ホストファミリーと過ごした日々は人生の宝物です。

最後に、私は、ニュージーランドでの様々な経験を通して、自分の夢や将来について考えることができました。海外の方と拙い英語でも一生懸命会話しようとし、心を通わせることの楽しみやそれが少しずつできるようになった達成感を全身で感じる事ができました。私は、元々剣道と茶道の経験があるので日本文化の良さを海外の方に伝え、同時に自分も世界の様々な国を訪れ現地の文化を体験し学ぶことが長年の夢だったので



ホビット村にて

ですが、今回の経験を通じて本当に前進できたと思います。この経験を生かし、将来はたくさんの言語を学んで、人と人との文化交流を通じて日本と世界を繋ぐ架け橋になりたいと思いました。

そして最後の最後に、パスポートやお金を度々なくしそうになった私をサポートしてくださり、楽しみを分かち合ってくれた福本さん、大橋先生、9人の仲間に最大の感謝を述べたいと思います。

本当にありがとうございました!!!

団員レポート（引率）

ニュージーランドで大きな一歩！

氷丘中学校教諭

大橋 愛香

第29回目の加古川市中学生海外派遣団に引率教師として同行させていただきました。派遣生10人のうち、8人は初めての海外。それぞれ不安な気持ちはありましたが、それよりも新たな出会いや、異なる文化に触れることへの期待感の方が大きいようでした。派遣生一人一人が、ニュージーランドで挑戦したいことを胸に、日本を出発しました。

オークランド市内の観光の中で、一番印象的だったのは、オークランド博物館の見学です。マオリ族の歴史や、生息する動物、そして戦争について学習しました。現地ガイドの方が、とても丁寧に説明してくださったおかげで、貴重な時間になりました。熱心に話を聴き、展示品の写真をたくさん撮る派遣生の姿を見て、その国の歴史や文化を正しく知ること、目で見ても心で感じる事が「理解する」ことに繋がるんだなと改めて感じました。



オークランド博物館で見た「ゼロ戦」



絶景のマウントイーデン

派遣生にとって、このニュージーランド滞在で大きく心に残っているのは、ホストファミリーとの出会いとラザフォード・カレッジでの2日間の学校体験だと思います。現地のコーディネーターの方が派遣生たちに、「あなたたちは、お客さんではありません。ホストファミリーの方々は、あなたたちを家族の一員として迎える準備をしています。」と話されていました。そして、「ここでは、自分で考えて行動しないと、誰も与えてはくれません。」と何度も繰り返されて

ていました。自分が分からないことは、分からないと言う。して欲しいことは遠慮せずにして欲しいと言ってみる。正しい英語じゃなくても、『伝えようとする気持ち』が大切。いよいよ派遣生たちの挑戦が始まりました。

1 日目を終えると、それぞれの家庭での初めての体験を口々に話していました。「お湯の出し方はどう尋ねたらいいかな?」「ホストファミリーとどんな会話をすればいいかな?」「週末～に行きたいって言うてもいいかな?」・・・などなど。楽しい経験ばかりではなく、言いたいことが伝わらないもどかしさや、悔しさを感じたり、日本との違いにとまどったりしたこともたくさんありました。しかし、そこで諦めるのではなく、とにかく『伝えようとする気持ち』を持って挑戦していました。目の前の課題に一つずつトライすることで、できるようになったことや上手くいったことがありました。そんな成功体験を積み重ねることが、大きな自信になり、次に繋がる原動力になるはずだと感じました。

ラザフォード・カレッジでの2日間の学校体験は、かけがえのないものになりました。マオリの伝統のポフィリという歓迎式を体験しました。学生たちが、私たちのために披露してくれた「ハカ」の迫力は、想像を遥かに超えていました。何百年も続く、マオリ族の伝統を、今も学生たちが学び、このように伝えていることは、素晴らしいと思いました。派遣生たちには、現地の学生（バディ）が一人ずつ付き、一緒に授業体験をしました。住む国や話す言語が違って、同世代ということに通じるものがあるようで、すぐに打ち解けていました。もちろん全て英語で展開される授業は、内容を理解するのが難しく、悪戦苦闘していましたが、バディの助けもあって参加することができました。何よりも、日本とは違う学校の様子や、授業の進め方などを知り、刺激を受けた2日間でした。先生方も、丁寧に授業や学校について説明してくださったり、気さくに話しかけてくださったりと本当にお世話になりました。ニュージーランドの人々の温かさに触れることができました。

多国籍の国ニュージーランドで、様々な国の人々と触れ合う中で、日本ではあまり意識しない、「日本人」としてどう思うか、ということを考える機会になりました。ニュー



大迫力のハカ



ホビット村で

ジーランドの“ラブリー”な人と文化に出会えた10日間は、私にとって貴重な経験になりました。派遣中、様々な場面でフォローをしてくださった福本さん、加古川市役所や国際交流協会の方々、そしてこの事業に関わってくださった全ての方に感謝します。この経験を生かし、英語教師として加古川市の教育のために尽力したいと思います。今後もこの事業の継続と発展を願っています。

思い出のページ



オークランド市役所庁舎の前で



ホストファミリーと



オークランド国際空港



オークランド市役所表敬訪問



表敬訪問で派遣生が挨拶！



加古川市寄贈の日本庭園を見学



現地の学生と交流



ラザフォード・カレッジ正門前で



マウントイーデンからオークランド市内を一望



オークランド博物館



ホビット村散策

加古川市委託事業

公益財団法人 加古川市国際交流協会

〒675-0017 兵庫県加古川市野口町良野 3 8 7 - 1

TEL : 0 7 9 - 4 2 5 - 1 1 6 6

FAX : 0 7 9 - 4 2 5 - 0 2 0 0
